

WEB 講演会
(オンデマンド配信)



いよいよ東京2021年記念講演会

「精神障がい者スポーツの 現状と未来」

— 2021年以降に向けて —

動画公開期間

第一期 2021年**3**月 **5**日(金) ~ **3**月**11**日(木)

第二期 2021年**4**月 **23**日(金) ~ **4**月**29**日(木)

主催：(公社)日本精神保健福祉連盟



ご参加は左記の QR コードまたは
URL からアクセスを
<https://f-renmei.kngh.jp/>

田中ウルヴェ 京さんの

(五輪メダリスト・メンタルトレーナー)

Zoom による特別対談も!



目 次

●挨拶（開催趣旨説明）	2
●現状報告	
精神障がい者スポーツの現状と課題	4
精神障がい者バレーボール	8
精神障がい者サッカー・フットサル	9
精神障がい者バスケットボール	13
精神障がい者卓球	16
●Zoomによる特別対談	
パラスポーツは力を呉れる	19
●協賛者名一覧	20
●広告	
●お問い合わせ	
いよいよ東京2021年記念講演会 実行委員会 事務局	
公益社団法人日本精神保健福祉連盟内	
電話 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309	
E-mail f-renmei@nisseikyo.or.jp	

挨拶（開催趣旨説明）

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事 大西 守

いよいよ東京 2021年 記念講演会
精神障がい者スポーツの現状と未来

精神障がい者スポーツの現状と未来

—2021年以降に向けて—

主催：(公社)日本精神保健福祉連盟

(公社)日本精神保健福祉連盟 常務理事
「日本精神障がい者スポーツ推進委員会」委員長

大西 守

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

1953年(昭和28)に設立

- 公益社団法人 日本精神科病院協会
- 一般社団法人 全国精神保健福祉連絡協議会
- 公益社団法人 全日本断酒連盟
- 一般社団法人 日本精神科看護協会
- 公益財団法人 日本精神衛生会
- 公益財団法人 復光会
- 公益財団法人 矯正協会
- 公益社団法人 アルコール健康医学協会
- 公益社団法人 日本精神神経科診療所協会
- 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
- 全国手をつなぐ育成会連合会

2021年記念講演会「精神障がい者スポーツの現状と未来」開催にあたって

- この度、公益社団法人日本精神保健福祉連盟は、2021年記念講演会「精神障がい者スポーツの現状と未来」を開催することとなりました。
- 2021年には、コロナ禍で延期となった東京パラリンピック競技大会が開催される予定です。従来以上に障がい者スポーツに関心が高まっております。残念ながら、パラリンピック競技大会において精神障がい者の正式競技種目はありませんが、障がい者スポーツ全体の活性化に向けて、その成功を強く期待しております。日本においては精神障がい者スポーツは全国障害者スポーツ大会への参加、国際大会の開催など、競技種目の拡大・国際化など着実に振興されております。
- 今回、精神障がい者スポーツに関心をもっていただくために、精神障がい者スポーツの現状を知っていただき、2021年以降を見据えた精神障がい者スポーツの未来についても考えていただけることを期待しております。

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
会長 鮫島 健
理事長 鹿島 晴雄
常務理事 大西 守

精神障がい者スポーツの現状と未来 —2021年以降に向けて—

- 特別対談
「パラスポーツは力を呉れる」 50分
語り手 田中ウルヴェ 京 聞き手、大西 守
- 精神障がい者スポーツの現状と課題 大西 守 15分
- 精神障がい者バレーボール 田所 淳子 15分
- 精神障がい者サッカー・フットサル 佐々 毅 15分
- 精神障がい者バスケット 鎗田 英樹 15分
- 精神障がい者卓球 高畑 隆 15分

精神障がい者スポーツの現状と課題

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事 大西 守

いよいよ東京 2021年 記念講演会
精神障がい者スポーツの現状と未来

精神障がい者スポーツの現状と課題

(公社)日本精神保健福祉連盟 常務理事
(公財)日本障がい者スポーツ協会 評議員・医学委員
大西 守

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

1953年(昭和28)に設立

- 公益社団法人 日本精神科病院協会
- 一般社団法人 全国精神保健福祉連絡協議会
- 公益社団法人 全日本断酒連盟
- 一般社団法人 日本精神科看護協会
- 公益財団法人 日本精神衛生会
- 公益財団法人 復光会
- 公益財団法人 矯正協会
- 公益社団法人 アルコール健康医学協会
- 公益社団法人 日本精神神経科診療所協会
- 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
- 全国手をつなぐ育成会連合会

精神障害者スポーツ参加選手の特徴

大半は精神科に通院中・服薬中である(患者)
精神科主治医の判断は欠かせない
精神科薬物の効果・副作用に留意
パーキンソン症状、循環器系への影響

病状・症状に波があり、変化しやすい
症状固定ではない
コミュニケーションが苦手
原則、特別な器具などは不要

日本における精神障害者スポーツの歴史

- 1964年(昭和39) ○ 東京オリンピックの開催
- パラリンピック東京大会の開催
- 1965年(昭和40) ○ 第1回全国身体障害者スポーツ大会の開催
- 障害者基本法の施行
- 1970年(昭和45) ○ 第1回全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)の開催
- 1992年(平成4) ○ 精神保健福祉法の施行
- 1995年(平成7) ○ (社)日本精神保健福祉連盟「障害者スポーツ推進委員会」の設置
- 1999年(平成11) ○ 第1回全国精神障害者バレーボール大会の開催
- 2001年(平成13) ○ 第1回全国障害者スポーツ大会(身体・知的障害)の開催



第4回全国精神障害者スポーツ大会

2004年11月14日 埼玉県越谷市



第8回 全国障害者スポーツ大会

- 2008(平成20)年10月10日-13日、大分県で開催
- 身体障害者、知的障害者に加え、
- 精神障害者、内部障害者が初参加

フットサルチームのイタリア遠征 2011年3月



第1回精神障がい者スポーツ国際シンポジウム

日時:2013年10月5日(土) 12:30-17:45

開催場所:明治学院大学(東京都港区)

主催:精神障害者スポーツ国際化実行委員会
(公社)日本精神保健福祉連盟
(公財)日本障害者スポーツ協会

共催:日本スポーツ精神医学会
日本ソーシャルフットボール協会

参加国:日本、イタリア、デンマーク、イギリス、
ドイツアルゼンチン、ペルー、韓国

第1回精神障がい者スポーツ国際会議

日時:2013年10月7日(月)

開催場所:(公社)日本精神科病院協会会議室

参加国:日本、イタリア、デンマーク、イギリス、ドイツ
アルゼンチン、ペルー、韓国

協議事項:

- 国際ネットワークの構築
- 国際大会の趣旨(親善大会、競技大会)
- 参加資格、対象疾患
- 競技種目
- 「東京宣言 2013」など



第1回ソーシャルフットボール国際大会
2016年2月27日-28日 堺市 J-GREEN堺



第2回精神障がい者スポーツ国際会議
2016年2月28日 堺市 J-GREEN堺



第2回 ソーシャルフットボール国際大会
Dream World Cup 2018

- 2018(平成30)年5月 イタリア、ローマで開催
- イタリア、日本、アルゼンチン、チリ、ペルー、フランス、ウクライナ、スペイン、ハンガリー

優勝:イタリア、準優勝:チリ、3位:ペルー

今後の課題

- 入院施設主体から地域主体へ
組織基盤の整備・人材育成
- 障害者スポーツの意義づけ
競技性と娯楽性、プライバシー確保
- 公式大会への参加
他障害・既存組織との協調
- 国際組織の設立・国際大会の開催
障害者スポーツに対する考え方、競技種目の選択
- 参加資格
障害レベルの判定、症状固定の問題

性別・違和をめぐって

- LGBTなどの性別違和
レズビアン(Lesbian)
ゲイ(Gay)
バイセクシュアル(Bisexual)
トランスジェンダー(Transgender)
- 公式大会での公平性・平等性の担保
性別(sex)に関しては遺伝子レベルまで調べられることもある
- 実際の問題
トイレ・更衣室の使用
ユニフォームの着用
選手名簿
第二次性徴期の対応

パラスポーツ (para-sports) の概念

- para- (ラテン語)
 - 類似、超えた
 - 平行、並行
 - 麻痺
- パラスポーツ
 - 障害のあるなしにこだわらない
 - 老若男女にこだわらない
 - ソーシャルスポーツ
 - ジェンダーフリー・スポーツ
- 新しいスポーツ発展への期待
 - e-スポーツ
 - 超人スポーツ(補助器具などの積極的活用)

精神障がい者バレーボール

公益社団法人日本精神保健福祉連盟精神障がい者スポーツ推進委員会委員 田所 淳子

精神障がい者バレーボール

(公社)日本精神保健福祉連盟
精神障がい者スポーツ推進委員会委員
田所 淳子

精神障害者スポーツ大会(バレーボール)の歴史

それは、平成13年春、突然にやってきた一本の電話。

「今年の秋に、仙台で精神障害者バレーボールの大会をします」
「全スポ大会には入れないようです。でも、独自で全国大会をします」
「次回開催県チームとして、高知県から参加してください」
「そして、来年は全国精神障害者バレーボール大会を開催してください。できれば全スポ大会に入れてください」

根耳に水。
「精神障害者がスポーツする、って信じられない。
ましてや大会だなんて」
私は当時、精神障害の方がスポーツをすることやその可能性について、全くの無知でした。

急いで希望者を募り、チームを作りました。が……さて……

- ・練習はどうするのか？
- ・どうやってスポーツの技術を身に付けるか、誰が教えるのか？
- ・医療や病気の調整を、誰がどうするのか？
- ・当事者は、どう思っているのか。そもそもやりたいのか？やれるのか？
- ・病気に悪影響はないのか？
- ・大会遠征の引率はどうか？
- ・費用はどうするのか？

今までに経験したことのない分野の仕事を調べ、悩み、困りました。

でもやってみて……「これはいい」と徐々に思うようになったのです。

・当事者のエンバウメント
「生き方が積極的になってくる」「家と病院の往復の毎日が遠くなる」
「他のメンバーに触発されてくる」「病院を超えたつながりや交友ができる」
「他のことにも挑戦したくなる」「上を目指したくなる」
「よく眠れるようになる」「体調管理を自分で始める」「社会性がアップしてくる」

一番思ったのは「自分頑張っている」「社会で存在している」「社会で胸を張っていられる」ということ

★名前や顔を出すということ★

- 自分の存在をこの世に示すのは名前。今まで隠してきた生き方から脱却
- 悪いことをしているのではない。そもそも「障害があるのは悪いこと」
「恥ずかしいこと」と思っていたから
- 税金を使っている公的大会。説明責任もあり、併せて納税者に知らせる(知ってもらえる)機会になる
- 「障害があってもこんなに頑張る人うちの会社にほしい」と思ってもらえる

その後の流れで特筆すべきこと

- ・バレーボール競技は、公的大会への参入、というトップダウンではあったが、結果、明らかに広がりを見せ、精神障害者スポーツの進展のきっかけになった。
- 平成20年から、全国障害者スポーツ大会の正式競技に位置付けられた。
- ・技術は見事に向上した。職と同じ。「確かな技術を身に付けるには、その筋の人(職人)に教えてもらう」
- ・競技が生きがいになっている当事者も多い。ひいては生活の質が向上する。
- ・精神保健的、福祉的、生活支援的なサポートも欠かせない。
- ・全国的な交流にも発展した。
- ・国民に少しでも知ってもらおうきっかけになった(理解促進)。

精神障害者バレーボールの今後の課題

- ①全国障害者スポーツ大会参加資格の問題
手帳限定にしてい流れ
- ②今でも進んでいない都道府県市のチームづくり(=地域社会づくり)をどうするのか
普及→育成→強化
- ③組織づくり
競技団体、3障害との絡み、一般スポーツ協会との連携、傘下
- ④競技規則
どこまで進展させるのか、しないのか
男女混合、ネットの高さ、ボール仕様

精神障がい者サッカー・フットサル

NPO法人日本ソーシャルフットボール協会 理事長 佐々 毅

いよいよ東京2121 記念講演会
「精神障がい者スポーツの現状と未来」

精神障がい者サッカー・フットサル

特定非営利活動法人
日本ソーシャルフットボール協会
佐々 毅



©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

はじめに

JSEFA
Japan Social Football Association

日本ソーシャルフットボール協会は、精神疾患/障がいを持つ人がサッカー・フットサルを行う団体として2013年に設立されました。これまでに国内では3回の全国大会、1回の地域選抜選手権を開催しました。国外では2016年に第1回国際大会を大阪で開催し、2018年にはイタリアで開催された第2回国際大会に出場いたしました。また、普及に関しては現在まで国内で約160チーム、2000人が参加するまでになっています。

2015年には一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)が設立され、当協会を含め7つの異なる障がいを持つサッカー団体が協働し、サッカーを通じて共生社会を目指す活動も行っています。

私たちは、フットボールを通じて今まで偏見の中で自信を失っていた精神障がい者が成長し、社会参加や自己発信を行うケースを多く見てきました。差別を受けていた人がどう立ち上がり生活しているかが私たちの中には多く詰まっています。この体験をより広く社会全体に伝えることが社会の再生・新生に寄与すると考え、今後10年の中長期的取り組みを策定します。

「ソーシャルフットボール」とは？


現在イタリアで行われているcalciosociale(英訳：socialfootball)に由来します。年齢・性別・人種・貧困・家庭環境・障がいなど、あらゆる違いを超えて社会連帯を目指したフットボールムーブメントです。2011年に日本の障がい者フットボールが初の海外遠征をした際にcalciosocialeに触れ、その理念に敬意を表して協会名としました。

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

私たちの目指すゴール

JSEFA
Japan Social Football Association

私たちは、フットボールを通じて
精神疾患・精神障がいのある人を中心に
様々な人々の
心豊かな社会生活の実現
を目指します。



©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会


第1回ソーシャルフットボール国際大会：決勝



JSEFA
Japan Social Football Association

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

国内の



JSEFA
Japan Social Football Association

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

精神障がい者サッカー・フットサルの歴史

2007	2006年に地域参加型スポーツクラブ「高槻精神障害者スポーツクラブWEARE」設立。精神障害者フットサル大会「大阪スカンビオカップ」開催
2008	第8回「全国障害者スポーツ大会」(大分, 10月)で精神障害者バレーボールが正式競技に。第1回ガンバ大阪主催精神障害者フットサル大会「ガンバ大阪スカンビオカップ」開催。同様の大会が埼玉、横浜、福岡で開催
2009	イタリアへ日比野(田中)が訪問
2011	イタリアにWEAREがロールモデルケースとして遠征/スポーツ基本法施行
2013	第1回精神障がい者スポーツ国際シンポジウム・会議開催(東京)、NPO法人日本ソーシャルフットボール協会の設立
2015	第1回ソーシャルフットボール全国大会(愛知)
2016	第1回精神障がい者フットサル国際大会(大阪)、日本障がい者サッカー連盟設立(日本サッカー協会と障害者サッカー7団体との連携)
2017	第2回ソーシャルフットボール全国大会(愛媛)/障がい者スポーツ大会
2018	第2回精神障がい者フットサル国際大会(イタリア) → Dream World Cup
2019	第3回ソーシャルフットボール全国大会(大阪)

日比野(田中)より引用

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

第1回ガンバ大阪スキャンピオカップ

2008.11.15 万博フットサルクラブ

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

そしてイタリア遠征実現!

第9回日本スポーツ精神医学会 (2011)

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

協会の活動実績～全国大会・国際大会～ JSFA

↑第1回ソーシャルフットボール全国大会(2015年10月/TEVAオーシャンアリーナ (愛知県名古屋))

↓第1回ソーシャルフットボール国際大会(2016年2月/J-GREEN堺 (大阪府堺市)) : 【参加国】日本・イタリア・ペルー

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

協会の活動実績～当事者と市民の協働による取り組み～ JSFA

※各地の取り組みを一部紹介

- ▶精神障がいの有無に関わらず「コミュニケーションフットサル」を通じた交流とソーシャルインクルージョンの実現を目指す「関東オープンリーグ交流会」(千葉県) <http://tomofuto.org/open2017> (トモフト)
- ▶2017年5月「関東オープンリーグ2017」を開催

- ◀障がいや疾病のあるないに関わらず取り組む「インクルーシブフットボール」を提唱するハーフタイムの取り組み (大阪南部) <http://halftimeosaka2.wixsite.com/top-page>
- ◀2016年9月「第4回HalfTimeカップ」を開催

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

協会・ソーシャルフットボールの強み JSFA

- 全国への急速な広がり
競技人口：約2,000人
チーム数：160チーム以上
活動エリア：41都道府県(令和2年現在)
- 競技人口が多く、潜在的な対象者が多い。
精神障がい者：396万人
※平成30年度厚生労働省生活実態調査より
- 精神疾患は回復しうる
他障がいと比べ、固定したものでない。
- 医療・福祉専門職が参画する
多くの医師が関与し、医療面での配慮が手厚い。

↑全国の普及マップ(赤色部分) 急速な広がりを見せる活動エリア。(2017年4月現在)

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

JSFA

世界へ

©NPO法人日本ソーシャルフットボール協会

精神障害者フットボールの国際化 日比野(田中)より引用

年	国	出来事
2011	イタリア・日本	日伊国際親善大会(イタリア)
2013	イタリア・ペルー・日本・アルゼンチン・デンマーク・イングランド・ドイツ・韓国	第1回精神障害者スポーツ国際シンポジウムを日本で開催 ⇒ 8カ国参加 フットボールをモデルとして推進することで合意 * 各国の状況を調査
2016	イタリア・ペルー・日本(会議のみの参加) アルゼンチン・デンマーク・韓国	第1回大会(フットサル)開催(日本開催) ⇒ 3カ国出場 * 各国の状況を調査
2018	イタリア・ペルー・日本・チリ・ハンガリー・アルゼンチン・フランス・スペイン・ウクライナ	第2回大会(フットサル)開催(イタリア開催)(Dream World Cup) ⇒ 9カ国出場 * 各国の状況を調査
2020	台湾、マカオ、香港、日本	台湾にて国際シンポジウム登壇
	深セン、香港、マカオ、台湾、日本	第3回大会(ペルー)は延期へ 深センにて国際シンポジウム登壇(オンライン)



日本障がい者サッカー連盟 (JIFF)

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) は、7つの障がい者サッカー団体の活動をサポートする中間支援組織です。日本サッカー協会 (JFA) の加盟団体で、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー団体の強化・普及を推進していきます。



日本アンパティサッカー協会
(切断障がい)



日本ソーシャルフットボール協会
(精神障がい)



日本電動車椅子サッカー協会
(電動車椅子)



日本ろう者サッカー協会
(聴覚障がい)



日本CPサッカー協会
(脳性麻痺)



日本知的障がい者サッカー連盟
(知的障がい)



日本ブラインドサッカー協会
(視覚障がい)

JIFFの概要

名称 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
 英語表記 Japan Inclusive Football Federation (JIFF)
 設立 2016年4月1日
 会長 北澤 豪
 副会長 井口 健司、山本 諒
 専務理事 松田 薫二
 理事 斎藤 悠一、佐々 毅、神 一世子、田中 賢二、日比野(田中) 暢子、前鼻 啓史
 社員 日本アンパティサッカー協会・日本CPサッカー協会
 日本ソーシャルフットボール協会・日本知的障がい者サッカー連盟
 日本電動車椅子サッカー協会・日本ブラインドサッカー協会・日本ろう者サッカー協会
 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス内
 URL <https://www.jiff.football>

機能・役割

- JFAとの連携窓口
- 各団体の意見取りまとめ・調整
- 障がい者サッカー・スポーツの発展に向けた施策の企画・立案・実施
- 各団体の連携強化に向けた取り組みの実施

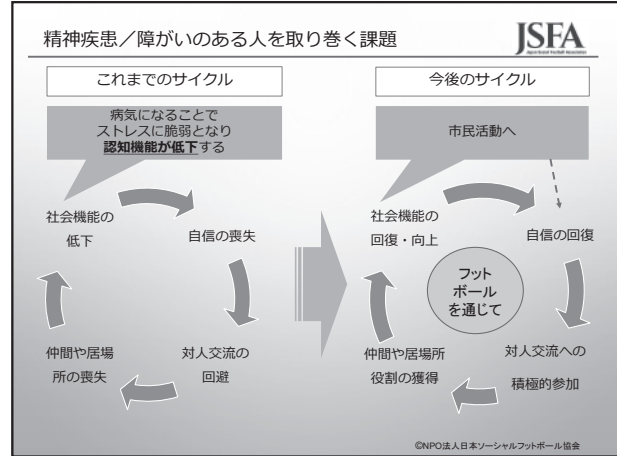


JSFA
Japan Soccer Federation



未来への課題と展望

©NPO法人日本サッカー協会



JSFA
Japan Soccer Federation

当協会を取り巻く環境 (SWOT分析)

		プラス要因	マイナス要因
		強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
内部環境		①団体の広がり(チーム増、日本代表結成) ②大会の広がり(全国・地域選抜・国際大会) ③メディア露出の広がり(実名露出へ) ④ネットワークの広がり(SNSが寄与) ⑤参加者の広がり(当事者、家族) ⑥活動場所の広がり(家から外、1人からチーム)	①人材不足(事務局及び専門職) ②一部役員への業務負担増加 ③通年をカバーする財源の不足 ④地域との連携が希薄 ⑤規定等ルールの未整備 ⑥財政基盤の脆弱性(協会及び地域)
外部環境		①バラスポーツのスポーツ庁への一本化 ②パラリンピック自国開催による国民の関心 ③国際活動の期待(アジア・parafootball) ④障がいや困難を持つ人との連携	①組織の仕組みと評価(ガバナンス) ②東京2020後の国民の障がい者スポーツに対する関心 ③コロナウイルス等による活動の損失
		機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)

©NPO法人日本サッカー協会

JSFA
Japan Soccer Federation

課題の達成に向けて

ビジョン；精神障がい者を含むすべての人々が心豊かな生活を送る

- 1. 組織基盤の整備**
 - ・ 必要な規定及び実行体制の整備
 - ・ 持続可能な財政基盤、人材の獲得(運営の人材育成・外部人材の確保)
- 2. 普及・育成・強化**
 - ・ 医療福祉関係者への周知と利用者へのスポーツ機会の提供
 - ・ 指導者育成、外部指導者の招へい
- 3. 広報・連携**
 - ・ 医療福祉関係者への周知
 - ・ 精神障がい者スポーツ団体・関係者との連携
 - ・ サッカー関係者(サッカー協会、プロリーグ)との連携
 - ・ JIFF、他の障がいや困難を持つ人に関わる団体との連携
 - ・ 一般への発信(当事者選手の経験を伝える)

©NPO法人日本サッカー協会

未来に向けて

- ・ 障がい者だけでなく様々な困難を持つ人が当たり前
に社会に存在していること、そんな社会を実現することが
希望です。
- ・ 精神障がい者スポーツを発展させるためには、医療福
祉関係者のみが支援するのではなく、幅広い人の協
力が不可欠です。
- ・ 精神障がい者に関わる医療福祉関係者自身が、自ら
と自らの仕事を特殊と考えず、社会の中の一員として考
えて活動することが必要と考えます。

精神障がい者バスケットボール

NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会 会長 鎗田 英樹

JSBA NPO法人
Japan Social Basketball Association
日本ソーシャルバスケットボール協会 2020年3月5日

精神障がい者 バスケットボール

NPO法人 日本ソーシャルバスケットボール協会
会長 鎗田英樹

I.沿革

2011年10月 任意団体 千葉県精神障がい者バスケットボール大会実行委員会 設立
2012年 3月 千葉県精神障がい者バスケットボール大会・フレ大会 開催
2013年 2月 第1回・千葉県精神障がい者バスケットボール大会 開催
2014年 2月 第2回・千葉県精神障がい者バスケットボール大会 開催
2014年 3月 NPO法人格取得のための勉強会および意見交換会開催
2014年 5月 発起人会開催、設立総会開催
2014年 9月 NPO法人日本ドリームバスケットボール協会 設立
2015年 3月 ドリームカップ2015フレ大会 開催
2015年12月 ドリームカップ2015本大会 開催
2016年12月 ドリームカップ2016 開催
2017年 4月 スミセイ・コミュニティスポーツ助成 第2種助成採択
ドリームバスケットボールキャラバン2017-2018開催
2018年11月 ドリームカップ2017 開催
2019年 4月 スミセイ・コミュニティスポーツ助成 第2種助成継続
ドリームバスケットボールキャラバン2018-2019 開催
日本障がい者バスケットボール連盟 準加盟
2019年11月 ドリームカップ2018 開催
2019年11月 法人名 変更
NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会へ改名
2020年11月 ドリームカップ2019 開催 (大阪)
ドリームカップ2020 開催予定 (千葉)

ドリームバスケットボール・キャラバン 2017-2018



スミセイ
コミュニティスポーツ推進助成
【第2種助成】採択
全国7か所で交流会を開催。

6月18日 千葉ラウンド
7月15日 熊本ラウンド
8月19日 札幌ラウンド
9月 9日 東京ラウンド
12月16日 沖縄ラウンド
1月 6日 高知ラウンド
1月27日 大阪ラウンド

【キャラバンの特長】
当事者選手と支援者がセットで遠征し
当日交流会の運営を実施

熊本ラウンド2017開催詳細



日時 : 2017年7月15日 (土)
13:00~16:00
会場 : 社会医療法人ましき会 益城病院 体育館
協力 : 熊本Volters
社会医療法人ましき会 益城病院
参加者 : 106名
熊本Voltersが協力



沖縄ラウンド2017開催詳細

日時 : 2017年12月16日 (土)
13:00~16:00
会場 : 沖縄県総合運動公園
協力 : 特定医療法人葦の会 オリブ山病院
後援 : 一般社団法人 沖縄県作業療法士会
株式会社NSPキングコング
参加者 : 40名
熊本Voltersが景品提供してくれました





大阪ラウンド2017開催詳細

日時 : 2018年1月27日 (土)
13:00~16:00
会場 : 大阪市長居障がい者スポーツセンター
協力 : 高槻精神障がい者スポーツクラブ
参加者 : 77名



ドリームバスケットボール・キャラバン 2018-2019



スミセイ
コミュニティスポーツ推進助成
【第2種助成】継続助成

全国7か所で交流会を開催。

7月14日 熊本ラウンド
8月25日 群馬ラウンド
9月 1日 東京ラウンド
9月23日 福島ラウンド
12月 8日 沖縄ラウンド
1月 5日 京都ラウンド
2月23日 愛媛ラウンド

福島ラウンド2018の様子

日時 : 2019年9月23日(土)
13:00~16:00

会場 : 郡山市東部体育館 体育館
共催 : 福島県精神障がい者バスケットボールクラブ
参加者 : 50名




全国精神障害者バスケットボール大会 ドリームカップ2018の様子

日時 : 2018年11月17日(土)
10:00~16:00

会場 : 千葉ポートアリーナ サブアリーナ
参加者 : 120名(9チーム)

ドリームカップ2021
11月6日(土)
開催予定!
会場は千葉公園体育館

成績 : 優勝 Eenen Osaka (大阪府)
準優勝 横浜Flat Head (神奈川県)
3位 青森スポーツクラブWandaji (青森県)





競技団体としての体制整備

- 日本障がい者バスケットボール連盟への加盟手続き
2019年より理事会にオブザーバー参加
現在は、準会員扱い

【現会員：法人格省略】

- 日本車いすバスケットボール連盟
- 日本車いすツインバスケットボール連盟
- 日本FIDバスケットボール連盟
- 日本デフバスケットボール協会



- 日本障がい者スポーツ協会 競技団体登録手続き
2020年7月・団体登録承認

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2020-2021 (ほぼ中止に)

開催ラウンド	開催予定日	開催場所
福島ラウンド	2020年5月16日(土)	郡山市東部体育館予定
福岡ラウンド	2020年7月4日(土)	福岡市障がい者スポーツセンター さん・さんプラザ 体育館予定
広島ラウンド	2020年6~7月開催予定	広島県立障害者スポーツセンター 交流センターおひつる予定
群馬ラウンド	2021年3月13日(土) 13:00~16:00	前橋市ヤマト市民体育館
名古屋ラウンド	2020年10月17日(土)	名古屋市障害者スポーツセンター
横浜ラウンド	2021年1月29日(水) 13:00~16:00	横浜武道館 アリーナ
仙台ラウンド	2020年9月13日(日)	現在、調整中
沖縄ラウンド	2021年1月開催予定	現在、調整中

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2021-2022 (予定)

開催ラウンド	開催予定日	開催場所
仙台ラウンド	未定(下半期予定)	現在、調整中
名古屋ラウンド	未定(下半期予定)	現在、調整中
横浜ラウンド	未定(下半期予定)	現在、調整中
群馬ラウンド	未定(下半期予定)	現在、調整中




ご清聴、ありがとうございます

精神障がい者卓球

公益社団法人日本精神保健福祉連盟理事／一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事

高畑 隆

**全国障害者スポーツ大会・
個人競技・卓球・精神障害の参加について**



2021年2月Web
公益社団法人日本精神保健福祉連盟
理事 高畑隆

わが国の障害者と手帳制度

- ・わが国の障害者は生活能力障害への手帳制度がある
- ・①1949(昭和24)年：身体障害者福祉法(法律第283号)第15条「**身体障害者手帳**(1級～7級)」
- ・②知的障害者福祉法(旧・精神薄弱者法)1960(昭和35)法律第37号)年厚生事務次官通知(1973年：昭和48年9月27日厚生省発見第156号)で「**療育手帳**(重度～軽度)」の交付を受けた者
- ・1995(平成7)年 **精神保健福祉法**で生活能力障害の方が「**第45条精神障害者保健福祉手帳**(1級～3級)」で精神障害者が障害福祉の対象に
*35～46年遅く障害者福祉の対象

我が国のスポーツ大会と障害者

- ・1964(昭和39)年10月東京オリンピック後にパラリンピックが開催され、翌年1965(昭和40)年5月(財)日本身体障害者スポーツ協会の設立
- ・→同年11月**全国身体障害者スポーツ大会第1回大会**岐阜県で開催、36回大会まで
- ・1980年国際障害者年その後の国連障害者の10年等を契機に
- ・1992(平成4)年**第1回全国知的障害者スポーツ大会**(愛称：ゆうあいピック)東京で開催、8回大会まで
- ・1998(平成10)年21世紀初頭に**全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会の統合の方向性**

全国障害者スポーツ大会(以下全スポ)

- 2001(平成13)年**日本身体障害者スポーツ協会**
→(公財)**日本障害者スポーツ協会**(JPSA:以下、日障協)が設立
- 同年2001年10月「**第1回全国障害者スポーツ大会**宮城県大会」が開催される
- 1998日本精神保健福祉連盟スポーツ推進委員会ができる。全スポ関連事業で2001年9月仙台で**全国精神障害者バレーボール大会**が開催
- *9～36年遅れて障害者スポーツに

全国障害者スポーツ大会の目的

- ・「**障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的**」
 - ・*全スポ大会の実施では①「全国障害者スポーツ大会開催基準要綱」②「全国障害者スポーツ開催基準要綱細則」③「全国障害者スポーツ大会競技規則の解説」で定められている
- ・大会の特徴①障害に配慮②スポーツ経験の浅い人に配慮③チャンピオンシップにこだわらない④都道府県民の障害者理解に寄与する

全スポ大会の会期と主催者

- ・全スポ大会会期は、国民体育大会の開催決定にあわせ、**開催3年前までに開催地主催者が中央主催者と協議して決定**
- ・**競技別会期は、開催2年前の年度末までに開催地主催者が中央主催者と協議して決定**
- ・全スポ大会は開催地主催者の都道府県で**3日間**開催する
 - **開催地主催者**：都道府県・指定都市及び市町村並びにその他の関係団体
 - **中央主催者**：公益社団法人日本障がい者スポーツ協会(日障協)、文部科学省

全スポ大会参加選手

- ・ 出場選手の**主な参加要件**は、毎年4月1日現在で**13歳以上**
- ・ ①身体障害者福祉法第15条『**身体障害者手帳**』の交付を受けた者
- ・ ②知的障害者は『**療育手帳**』の交付を受けた者、準ずるもの
- ・ ③精神障害は精神保健福祉法第45条『**精神障害者保健福祉手帳**』の交付を受けた者、準ずるもの
- ・ 参加申し込み時に参加都道府県・指定都市に現住所（**住民票のある地**）を有する者
- ・ *各都道府県**選手団の人数**：個人競技は、各都道府県の**手帳数**を基礎に各都道府県に按分

全スポ大会の競技種目

- ・ 競技規則に定める競技・種目については、日障協が設置する全国障害者スポーツ大会大会委員会で協議し、**開催年の5年前までに日障協が決定する**（正式競技）
- ・ その他、定められていない競技・種目であっても、**広く障害者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められる競技は、主催者間で協議して「オープン競技（単年度競技）」として実施できる**

全スポ大会：参加選手・人数

- ・ **★参加役員・選手総数は5,000名を限度**
- ・ **■個人競技参加選手数＝2,540名**
- ・ ①身体障害者 1,200名
- ・ ②知的障害者 1,200名
- ・ **③精神障害者 100名卓球**
- ・ **個人競技の実施は**
 - ①身体障害が障害区分・年齢区分、②知的障害は年齢区分、③精神障害は区分なし
- ・ **■団体競技**：選手約1099名＋役員
- ・ ①**身体障害：3競技4種目**：（選手51×7≒357名）車いすバスケットボール12名以内、グラウンドソフトボール15名以内、バレーボール男子・女子各12名以内
- ・ ②**知的障害：5競技7種目**（選手94×7≒658名）バレーボール男子・女子各12名以内、ソフトボール15名以内、バスケットボール男子・女子各12名以内、サッカー16名以内、フットベースボール15名以内
- ・ ③**精神障害：1競技**（選手12名×7≒84名）バレーボール各12名以内
- ・ *ブロック代表と主催県

全スポへ 新たな競技の導入

- ・ 2008年第8回大分県大会
 - ①**団体競技「バレーボール」に「精神障害」**
 - ②**身体障害「内部障害が個人競技：陸上競技、アーチェリー、フライングディスク」**
- ・ 2019年第19回茨城県大会
 - ③**個人競技「卓球に精神障害（男女各1名）」**
- ・ 2021年第21回三重県大会
 - ④**障害の重度化、高齢化、女性参加の改善に向け「個人競技ポッチャに身体障害（重度）」**

全スポ大会 個人競技・卓球への精神障害の導入経緯

- ・ ①**2011年～2013年**：日障協に**検討委員会**：精神障害個人競技の参加への**調査研究**：2014年3月**報告書**
- ・ ②2014年：日障協 技術委員会等で精神障害の**個人競技種目の参加等**の検討
- ・ ③2015年：個人競技**卓球**の参加の方向等への調整
- ・ ④2016年：卓球競技に精神障害の参加の方向性
- ・ ⑤2017年：茨城県大会から卓球・精神障害の参加が明示される（大会3年前）
- ・ ⑥**2019年茨城県大会**で個人競技・卓球**精神障害**（各都道府県男女各1名）が正式参加

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会2011～2014年3月「精神障がい者スポーツ実態調査研究事業 平成25年度報告書（3年間のまとめ）」

- ・ 1. 精神障がいのある人へのスポーツの有効性
- ・ 2. スポーツがもつ力（目標をもつ、自立する）の活用
- ・ 3. 個人の大会（**全国障害者スポーツ大会**）**競技・種目の提案**では、**①卓球、②ボウリング、③フライングディスクの3種目を推薦**
- ・ 4. 大会・競技運営
- ・ 5. 精神障がいのある人のスポーツ指導
- ・ 6. **宿泊を伴う選手派遣**
 - ①日常の団体生活の決まりを守る
 - ②精神状態が悪い時の対応
 - ③服薬に関する対応
 - ④精神障がい者に理解ある役員・スタッフ派遣
- ・ 7. 地域とのつながり

全スポ個人・卓球精神障害の推進に向け資料1～3
公益社団法人日本精神保健福祉連盟HPに掲載



全スポ大会個人競技・卓球・精神障害の円滑な参加に向けた資料 (公益社団法人日本精神保健福祉連盟HP掲載)

・資料1：精神障害者の参加支援実施マニュアル(案)

・資料2：個人種目卓球・精神障害者の全スポ大会派遣者向け

・資料3.精神障がい選手派遣参加票(本人記入)

- 全スポの各都道府県予選会に参加する精神障害の選手に、参加票への記載を実施して、全スポ大会参加に円滑な手掛として提供している
- (埼玉県障害者スポーツ推進プロジェクト精神チーム2019)
- 項目：手帳、現在のスポーツ状況服薬・生活環境状況、**宿泊**・移動集団行動、**大会派遣**(5泊6日)

まとめ

- ①身体障害や知的障害の手帳制度(生活能力障害)及び身体障害者や知的障害者のスポーツ組織と全国大会に比べて、精神障害の手帳やスポーツ組織・大会は**かなり遅れた開始**である。
- ②全スポは、競技団体等のチャンピオンシップとは異なる位置づけで、**障害者のスポーツの祭典**である
- ③全スポ精神障害の競技は、団体フットサルとバスケット2競技で、今後はバレーボール・卓球等の**組織化**
- ④**精神障害は多様な競技種目への参加**と組織化・大会づくりが望まれる
- ⑤今後、精神障害者スポーツは身体障害や知的障害の競技団体等の**障害者スポーツ関係団体との協働**が望まれる

いつでも
どこでも
誰もが
スポーツを
笑顔で楽しく

ご静聴ありがとうございました m(_ _)m

Zoomによる特別対談 パラスポーツは力を呉れる

五輪メダリスト／メンタルトレーニング指導士／IOCマーケティング委員

田中ウルヴェ 京

【プロフィール】

1967年東京生まれ。聖心女子学院初・中・高等科を経て、日本大学在学中

1988年ソウル五輪シンクロナイズド・スイミングのデュエットで銅メダルを獲得。

引退後10年間に亘り、日・米・仏のシンクロ代表チームコーチを歴任。

1991年に渡米し、1995年カリフォルニア州セントメリーズ大学大学院にて修士号取得。

その後、アーゴジー心理専門大学院、サンディエゴ大学院と合計6年半の米国留学で、スポーツ心理学、認知行動療法、競技引退後の心理、パフォーマンスエンハンスメントを学ぶ。

2001年に帰国し、日本スポーツ心理学会認定スポーツメンタルトレーニング上級指導士として、プロスポーツ選手や日本代表選手などトップアスリートからビジネスパーソン・一般層までメンタルトレーニングを指導し、心理学をベースにした企業研修や講演を行う。

2017年、国際オリンピック委員会（IOC）マーケティング委員に就任。

IOC認定アスリートキャリアプログラムトレーナー、スポーツ庁スポーツ審議会委員も務める。

また、報道番組でレギュラーコメンテーターを多数務めている。

フランス人の夫と一男一女の母。



協賛者名一覧

順不同／敬称略

公益社団法人日本精神科病院協会

公益財団法人復光会

公益財団法人矯正協会

一般社団法人日本精神科看護協会

公益社団法人日本精神神経科診療所協会

公益社団法人全日本病院協会

一般社団法人日本医療法人協会

一般社団法人日本病院会

株式会社日精協サービスセンター

一般社団法人JAPHネットワーク

医療法人社団 根岸病院

(特定) 医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院

四谷ゆいクリニック

医療法人社団宙麦会

NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会

日本ソーシャルバスケットボール協会は、
精神障がい者バスケットボールを支援している団体です。



全国大会の開催や全国各地での交流会の実施、
当事者の方へのチーム紹介やチーム運営のサポートなど、
さまざまな活動をしてきました。

精神障がい者バスケットに参加してみたい当事者の方、
支援にご協力いただける方を随時募集しております。



ご興味のある方は、ホームページをご覧ください！
<https://jsba.web.fc2.com>

JSBA NPO法人
Japan Social Basketball Association **日本ソーシャルバスケットボール協会**

医療法人社団



宙麦会



そらむぎかいの意味は
「精神疾患の回復は宇宙のように
無限大にあります」
そんな意味を込めて
宙麦会と名付けました

理事長 肥田裕久

デイ/ナイトケア るえか

るえかは地域で生活することを目標として
心理教育を中心にリハビリをする
リカバリーのチームです

TEL.04-7150-8145



デイ/ナイトケア VINAKA

幅広い世代に向けた
『こころ』のリハビリテーション

サテライト
訪問看護ステーション **すびかお台場**

住所 〒135-0091
東京都港区台場 1-5-4-2F

TEL.03-6457-2969
※24時間緊急対応



医療法人社団 宙麦会

ひだクリニック

(心療内科・精神科・精神科デイ・ナイトケア)

院長 肥田裕久

診療時間 日・月・火・水 9:30～18:00
水・金 9:30～20:00
休診日 土曜・祝祭日・年末年始

住所 〒270-0163
千葉県流山市南流山 1-14-7

TEL.04-7150-8141(代表)
04-7150-8146(新患予約専用)
FAX.04-7150-8120
URL <https://soramugi.com>

医療法人社団 宙麦会

ひだクリニックセントラルパーク

(心療内科・精神科)

院長 宗岡克政

診療時間 月・火・水・金 9:30～18:00
木のみ 9:30～20:00
休診日 土日・祝祭日・お盆・年末年始

住所 〒270-0152
千葉県流山市前平井 120
リュージュ 001

TEL.04-7157-2269(代表)
04-7157-2371(新患予約専用)
FAX.04-7178-6069
URL <https://soramugi.com/hida-clinic-centralpark>

医療法人社団 宙麦会

ひだクリニックお台場

(心療内科・精神科・精神科デイケア)

院長 佐々 毅

診療時間 月 9:30～17:00
火 10:00～19:00
水 9:30～18:00
木 10:00～20:00
金 10:00～19:00
土 9:30～17:00

休診日 日曜日・祝祭日・年末年始
住所 〒135-0091
東京都港区台場 1-5-4-2F

TEL.03-6457-1511(代表)
FAX.03-6457-1523
URL <https://soramugi.com/hida-clinic-odaiba>

医療法人社団 宙麦会

訪問看護ステーション **すびか**

管理者 丁野雪子

開所日 月～金 9:00～18:00
お休み 土曜・日曜・祝祭日・年末年始
※24時間緊急対応

住所 〒270-0163
千葉県流山市南流山 1-14-8
ロジカル南流山 101

TEL.04-7138-5418
FAX.04-7138-5426
URL <https://soramugi.com/spica>

医療法人社団 宙麦会

相談支援事業所 **PHARE**

(フアール)

管理者 木村知美

開所日 月～金 9:00～18:00
お休み 土曜・日曜・祝祭日・年末年始

住所 〒270-0163
千葉県流山市南流山 1-14-8
ロジカル南流山 101

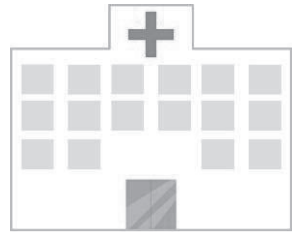
TEL.04-7136-2933
FAX.04-7136-2644
URL <http://phare-nagareyama.jp/>

株式会社日精協サービスセンター

日精協会員病院をはじめとした
病院・施設の運営をサポートをしています



【設備運営サポート】
【販売サービス】



安価で信頼のある製品を提供するため
共同購入・共同交渉・斡旋し、
コスト削減を幅広くサポートします

MRI



Vantage Elan

CT装置



Aquilion™ Lightning

マスク
フェイスシールド
サーモカメラ等々

感染予防対策商品も各種取り扱っております。



ストレスチェック
サービスも提供
しています



詳しくは下記へお問い合わせください

問い合わせ先

株式会社日精協サービスセンター TEL:03-6722-0515 FAX:03-6722-0516

〒105-0023 東京都港区芝浦1-15-13 田嶋ビル4階

<https://www.nisseikyo-sc.co.jp>

いよいよ東京2021年記念講演会
「精神障がい者スポーツの現状と未来」
－2021年以降に向けて－

主催：（公社）日本精神保健福祉連盟
